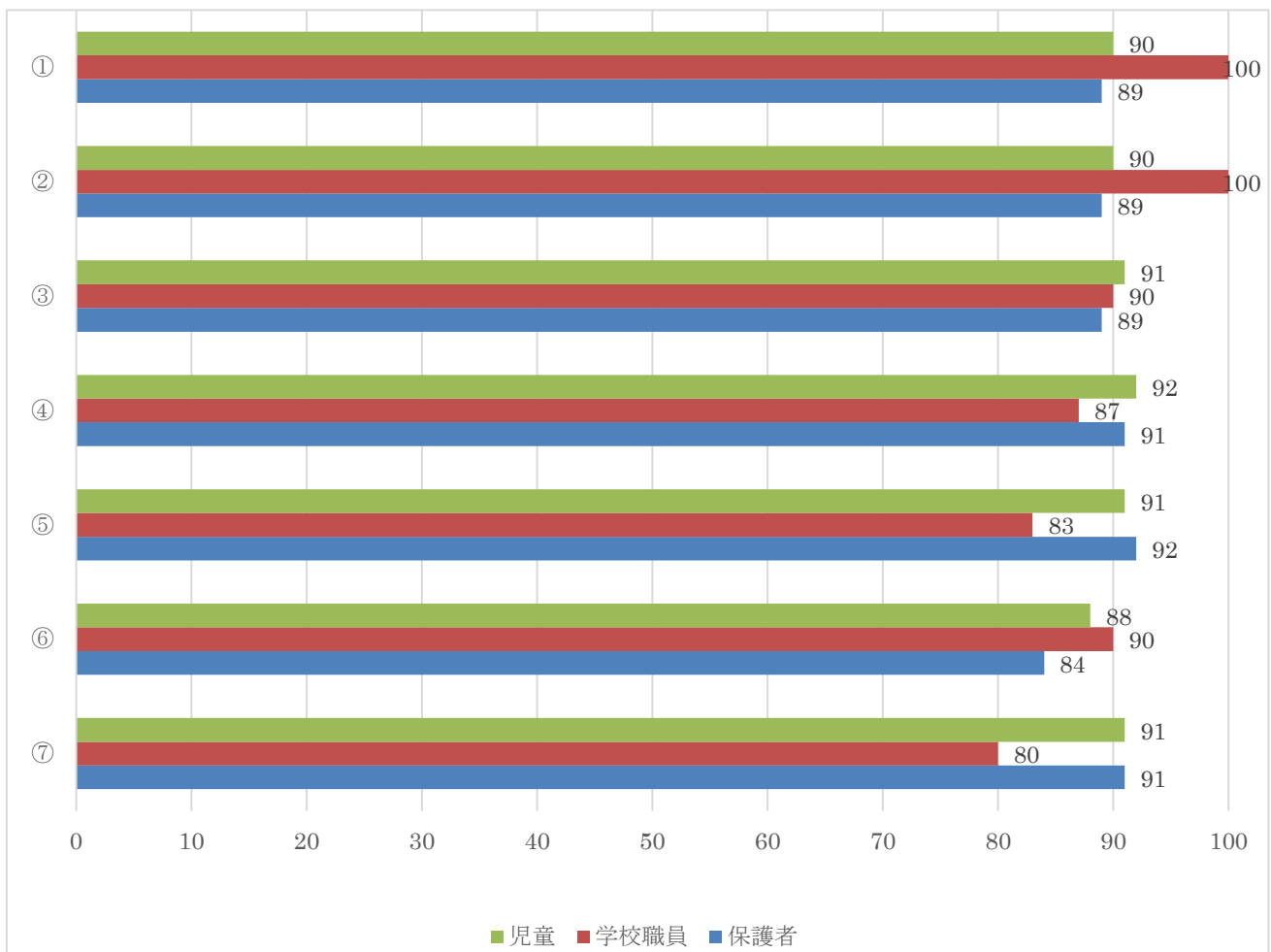


R 7年度学校評価アンケート集計結果

浜松市立双葉小学校

昨年末には、学校評価アンケートに御協力をいただき、ありがとうございます。集計結果が出ましたのでお知らせいたします。

学校教育目標 「夢に向かってともに伸びゆく子」
 目指す子供の姿 「『やりたいこと』を見つけて、挑戦する子」
 重点目標 「【知】知りたいがいっぱい」
 「【徳】思いやりがいっぱい」
 「【体】元気がいっぱい」



～学校評価アンケート結果（とてもそう思う、まあそう思う 合計）～

<アンケート項目>

- ①「やりたいこと」を見つけて、挑戦している。
- ②「やりたいこと」を見付け、進んで取り組んでいる。
- ③自分の伝えたいことを表現したり、相手の伝えたいことを理解したりしている。
- ④自分らしさを大切に、生かそうとしている。
- ⑤相手のことを思いやり、協力している。
- ⑥目標に向かって、あきらめないで取り組んでいる。
- ⑦学校のきまりを守って生活をしている。

1 自己評価

本年度も「夢に向かってともに伸びゆく子」を育てるために児童、教職員、保護者や地域の方々で「『やりたいこと』を見つけて、挑戦する子」を目指す姿として共通理解し、教育活動を展開してきました。そして様々な成果が得られました。その要因は特に次の2点にあると考えました。

1点目として、子供が学習や活動を自分事として捉え、主体的に取り組めるように全ての教育活動において「何のために」「なぜ」を問い掛けることから活動を始めることを継続してきたことです。以下に活動における表れを紹介します。

- (1) 運動会では「何のために、運動会をやるのか。」を考えることからスタートしました。2年生以上の学年は、昨年度も同じことをしていたため、子供たちから「成長した姿を見せるため。」「家族に一生懸命な姿を見てもらうため。」など、多くの意見が出ました。また、本年度から双葉小に勤務された先生方とも事前にやり方を共有しました。先生方からは、子供たちが主体的に取り組む良いやり方だという意見をもらいました。

今年度初めての運動会となる1年生に対しては、まず「幼稚園や保育園、こども園で運動会あった？」と尋ね、イメージをもたせました。次に、「小学校にも運動会があるんだよ。」と話す、「どんなことをやるの？」と子供たちが興味をもったところで、昨年度の運動会の様子の写真を見せ、具体的なイメージをもたせました。イメージをもたせた上で、2年生と一緒に運動会は「何のためにやるのか」「何をしたいか」の話合いを進めました。

- (2) 1年生から6年生までの縦割りグループによる「なかよし遊び」では、昨年度までは6年生が企画・運営を全て行っていたが、今年度は、3年生以上の学年が分担して企画・運営を行いました。まず、リーダーである6年生が「何のために『なかよし遊び』をするのか。」を考え、「他の学年と仲良くするため。」「学校全体が仲良くなるため。」などの意見が書かれた紙をファイルに貼りました。3～5年生は、その紙を見ながら、「何のために」を意識しながら、自分たちがやりたいことを取り入れて活動をしました。

自分たちが企画・運営することで、主体的に活動することができました。また、活動中には、3～5年生が運営をする際、6年生が運営のサポートをする様子も見られました。

2点目として、教職員が課題を共有し、具体的な方策を考え、実行したことです。学校評価アンケート項目③「自分の伝えたいことを表現したり、相手の伝えたいことを理解したりしている。」が、中間評価では、児童と教職員の間乖離が見られました。そこで、夏の研修において、どのようにしたらよいのか考え、具体的な方策を共有しました。2学期に様々な方策を実践したことで、11月のアンケートでは、教職員の数値だけでなく、子供たちの数値も上がりました。

課題としては、アンケート項目①「『やりたいこと』を見つけて、挑戦する子」が、中間評価と比べて若干下がっていること、昨年度と比べると下がっていることが挙げられます。

「やりたいこと」を見付けられない子、「やりたいこと」があっても行動できない子がいることが考えられます。来年度は、児童に自分の幸せや成長のため、主体的に行動できるように支援を工夫し、改善を図っていきたいと考えています。

〈来年度の改善策〉

- ・ 児童が分かりやすく、みんなが共有できるように「気づき・考え、行動する」という合言葉を繰り返し全職員で使っていきます。
- ・ 児童が「自分は見守られ支えられている」と実感し、安心して「やりたいこと」に取り組めるように、「キャリア・カウンセリング」（教師との対話〈勇気付け〉）を大切にします。

※ 本年度も重大事案に至ったいじめは認められませんでした。その理由は、2点考えられます。

1点目は、児童アンケートの結果（とてもそう思う、まあそう思うの合計）がすべて90%を超えていることから、前述のとおり児童は様々な教育活動を通して、個々が自信をつけ、他者への思いやりが育ったことで、安心・安全な環境の下で落ち着いた学校生活を送れているからだと考えます。

2点目は「学校いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめの未然防止」「いじめの早期発見」に重点を置いて、全職員で共通理解を図り丁寧な対応をしてきた結果ではないかと推測します。被害者の立場に立ち、積極的にいじめを認知しました。いじめの見逃し0を目指し、教員が常にアンテナを高くして児童の様子を見取ってきました。良い表れと同様に気になる様子が認められれば教員同士で情報を共有し、迅速且つ適切に対応することを意識してきたことが、重大事案に至るようないじめにつながらなかったのだと捉えています。

今後も思いやりのある集団づくりを心掛け、教師と児童の良好な関係、教師同士の連携を大切に、いじめへの対応を誠実に行っていきたいと思います。

2 学校関係者評価

12月9日（火）、2月13日（金）に開催した学校運営協議会において、学校評価、考察について委員に報告しました。委員からは以下のような意見がありました。

- ・児童が目標に対して肯定的に捉えている。
- ・保護者には、伝わっていなかったり、分からなかったりする部分があるので、学校評価アンケートをする際に、グランドデザインを活用してはどうか。
- ・「学校のきまりを守って生活している」の項目では、児童と学校職員とのギャップがある。
- ・「『やりたいこと』を見つけて」だけでなく、「やりたくないこともあるが、よく分からないけれど、やってみたらおもしろい」ということもある。
- ・社会の変化がある中、〇〇教室など、外部人材を活用した学習で経験を積むことが必要だろう。
- ・キッズチャレンジビジネスは、コーディネーターやボランティアとの理解・工夫のもと、活動の価値を共有して作り上げることができた。
- ・いじめの認知件数だけ見ると多いと感じたが、いじめについての法律や定義を見ると納得した。
- ・いじめについての法律への理解がより深まるよう、保護者へ周知する機会があると良い。
- ・いじめの認知件数が増えたことにより、職員の対応に掛かる時間が増えて、ただでさえ疲弊している状態なのに、どうすればより効果的に対応できるかが課題で、検討が必要である。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図っていきます。

- ・学校評価アンケートを実施する際には、グランドデザインを添付し、学校の経営方針をより保護者に理解してもらえるようにした上で行います。
- ・「学校のきまり」の児童と教員のギャップを埋めるために、年度初めに子供たちと教員で「学校のきまり」を確認する時間を設け、共有します。
- ・外部人材を活用できるように、今年度お招きした外部人材や地域人材をリスト化し、教員内で共有します。
- ・本年度と同様、いじめ防止対策推進法について、来年度のPTA総会等においても保護者に周知する機会を設けます。